

2012年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人間科学研究所
研究所・センター長名	松田 亮三

I. 研究実績の概要（公開項目）

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2012年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお本欄は、研究所・センターの総括として使用いただき、プロジェクトごとの詳細な実績報告は、別紙「重点プロジェクト実績報告書様式」(非公開)に記述のうえ提出ください。

人間科学研究所の2011年度の研究実績は、以下の通りであった。

I. 全所的プロジェクトの推進

本研究所の最重要課題である対人援助に関わる総合的研究の戦略的研究を推進した。特に、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を受け実施している全所的プロジェクト「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」では、高齢者・障害者支援、ニーズの多様化と支援の再構成、情報蓄積と移行システム構築、というテーマについて、6つのチーム(高齢者支援チーム/発達支援チーム/就労支援チーム/心理バリアチーム/ケア・コミュニティチーム/アーカイビングチーム)が取り組みをすすめた。2012年度の成果は、著書47点、論文95点、学会発表88件、公開企画および公開講座等55件であった。

また、本プロジェクトの報告会とともに研究所年次総会を開催し、今後の研究展開を展望した。これら研究成果は「共同対人援助モデル研究」として冊子にとりまとめ、ウェブ(http://www.ritsumeihuman.com/publications/index/cat_id/24)上で公開している。

II. 学術雑誌の刊行・関係規定の整備とウェブ等での発信

『立命館人間科学研究』については2回の定期刊行を実施した。これまでのように、掲載論文は全て外部の査読者による査読を受けて掲載された。掲載論文は、19編であった。投稿論文が掲載論文のほとんどを占めるようになっており、また投稿者の所属も幅が広いと、より明確でわかりやすく運用しやすい規程となるように、編集・投稿・査読等に関わる規程について改正・整備を行った。掲載論文、新規規程についてはウェブ(http://www.ritsumeihuman.com/publications/index/cat_id/22)上で公開している。

研究成果の社会的発信を促進するため、各研究プロジェクトの課題・内容・成果がより分かりやすくなるように、2012年度から準備をすすめてきた研究所ウェブ(<http://www.ritsumeihuman.com/>)の再編を実施した。この際、研究の国際化をすすめるため、日英両言語(一部は日本語のみ)でウェブを再構築した。

III. 研究プロジェクトの明確化と「人間科学のフロント」

研究所を基盤として推進されているさまざまな研究プロジェクトを整理し、ウェブを通じて発信する体制を構築した。また、研究所のプロジェクトへの参加状況を基礎として、運営委員以外に研究所の研究活動に参加している研究者を明確化した。

また、研究所重点プログラムにて採択された予算を、所内の重点プロジェクトへ配分することで研究を活性化させ、「人間科学のフロント」ページを新設して、その最先端の成果を迅速に社会へ発信する体制を構築した。

IV. 次期全所的プロジェクトの検討

「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」が2012年度をもって終了を迎えるため、2013年度以降の全所的プロジェクトを検討し、「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」という研究計画を構築した。同研究計画では、インクルーシブ社会に向けた対人支援のあり方を伴走的支援・修復的支援・予見的支援という多様な角度から検討するとともに、特に実践応用あるいは社会実装への道筋を明確にした学術研究<学=実>連環(トランスレーショナル)を、そうした分野ですすめるための方法論的検討とその応用を含めた意欲的な計画である。また、これにもとづき立命館大学としての文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業申請への取り組みを進めた。

V. 新たな研究の多様な進展

対人援助とは関連しつつも、相対的に独立した人間科学の新しい研究領域を開拓するために、以下の研究プロジェクトを実施した。

①「日韓の介護保険制度」では、長寿の島として知られる鹿児島県与論町で高齢者に対するインタビューや関係機関(介護老人保健施設、与論町町民福祉課、高齢者支援のNPO等)へのヒアリングを実施し、韓国で高齢者施設(ケアセンター等)や高齢者支援(雇用創出等)に関わる社会的企業(希望製作所)で意見交換を行った。それにより、高齢者が健康に暮らすために、地域社会における高齢者の生きがいやそれを支えるインフォーマルな共助システムの重要性が明らかとなった。

②「社会排除の危機にある生活困難患者への臨床医・社会学的ケア研究」では、プライマリケア場面において、貧困・生活困難と疾病という複合した問題によって社会排除の危機に直面している患者・住民に対する臨床医-社会学的ケアのあり方を明らかにすることを目指して、病院との連携体制の構築、往診診療とともに行われる生活の観察および見守り活動を視察しその含意を検討した。さらに、英国、米国での社会包摂的医療についての文献・資料研究をすすめ、社会的包摂に関する議論は多数あるものの、医療という場面での研究の蓄積は極めて限られているものの、米国での safety net providers、英国での inclusive health care の議論など興味深い試みもあり、これらをふまえて日本での取り組みに生かせるような概念形成が重要であることが明らかになった。

③「文化心理に関する複合的研究」では、発達の移行研究のヌーシャテル大学 Zittoun 教授の元で若手研究者が方法論を学び、それを活用したデータセッションを実施した。同教授独自の方法論を活用した共同研究を行うための基盤を形成できた。スイスでのこうした研究成果を12月にクラーク大学 Valsiner 教授が来日した際に英語で発表し、複線径路・等至性モデルの理論的拡張への寄与が検討された。また、東日本大震災後の日本のイメージの研究として、風評問題についての文化心理学の観点からの理論的考察を行い、福島第一原発由来の風評問題について、関西、及び、海外在住の学生(海外の研究者に協力を要請した上でスイス・エストニア・イギリス・中国で実施)に質問紙調査を行った。

④「発達障害児とその家族の特別なニーズと支援に関する研究」では、(1)発達障害児とその家族の抱える特別なニーズに関してインタビュー等による質的な調査研究を進めることと、(2)発達のアセスメントにかかる基礎的な研究として発達検査等に含まれる課題の臨床的意義に関する実証的研究を進めることの2点を、このプロジェクトの主要な二つの柱として研究活動を進めた。

⑤「災厄に向かう——災害と障害者・病者支援・2012」では、このままでは消えていくに違いない情報を途切れることなく収集し、整理し、HP(<http://www.arsvi.com/d/d10.htm>)に掲載した(計73メガバイトに及ぶ)。これらの活動では、「被災地障がい者支援センターふくしま」「ゆめ風基金」「東北関東大震災障害者救援本部」「被災地障がい者センター・いわて宮古事務所」「同・かまいし」「同・いわて」「同・みやぎ 県北支部」「同・みやぎ」「同・石巻」「同・みやぎ 県南支部」「東日本大震災障がい者新潟支援センター(新潟)」と協力しつつ、情報収集をすすめており、その一部は英語・韓国語でも発信した。

⑥「心理主義化と参加型社会の形成」では、心理主義化に伴う「人間力」などのコミュニケーション能力の強調のあり方を、主としてポップ・心理学書、恋愛、婚活マニュアルから分析した。90年代から浸透した恋愛等での対人関係での個人スキルの強調が、2000年代に入るとスキルの細分化と人格への浸透へと深化する中で、個々人をコミュニケーション・スキル獲得へと追いやる社会の統治の技法が明らかとなった。また同時にそれは、背景にある文化資本の差異や社会経済的構造に規定されたものであるはずの人間関係のあり方を忘却させることを通して、社会問題を個人化するものであることも明らかになった。

⑦「アスペルガー障がいのある人への認知行動療法(CBT)の適用」では、標準的な認知行動療法の技法をアスペルガー障がいの特性に合わせてアレンジすることが求められている中で、CBTの中でもアクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)を用いた技法のアレンジについて、特にWiiとWii Fit plusを用いたマインドフルネストレーニングを利用した症例研究を行い、アスペルガー障がいのある人へのACTは、持続的継続的な仕組みを作ることが重要である点が明らかになってきた。

⑧「生命倫理問題の表象と教育」では、教育の場における生・老・病・死の語りの構造の解析に資する映画や演劇、漫画、TVドキュメンタリーなどの蒐集に努め、日本生命倫理学会第24回年次大会で、生命倫理教育の言説構造を再考し、難病者や重度障害者との継続的対話を図るシンポジウム「生命倫理教育の再考」を組織し、注目を集めた。

II. 研究業績（公開項目）

1) 論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. Hiroshi Ashida, Ichiro Kuriki, Ikuya Murakami, Rumi Hisakata, Akiyoshi Kitaoka, "Direction-specific fMRI adaptation reveals the visual cortical network underlying the "Rotating Snakes" illusion", *NeuroImage*, Academic Press, Vol. 61, no. 4, pp. 1143~1152, (2012)
2. 天田城介, 「歴史と体制を理解して研究する——社会学会の体制の歴史と現在」, 『保健医療社会学論集』, 日本保健医療社会学会, 23 巻 1 号, pp. 56~69, (2012)
3. 天田城介, 「日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の制度と運用の変更について」, 『保健医療社会学論集』, 日本保健医療社会学会, 23 巻 1 号, pp. 106~112, (2012)
4. 荒井庸子・荒木穂積, 「自閉症スペクトラム児における象徴機能と遊びの発達—ごっこ遊びから役割遊びへの発達過程の検討—」, 『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 47~62, (2013)
5. Araragi, Y., Aotani, T., Kitaoka, A., "Evidence for a size underestimation of upright faces", *Perception*, Vol. 41, pp. 840~853, (2012)
6. 荒川歩・安田裕子・サトウタツヤ, 「複線径路・等至性モデルの TEM 図の描き方の一例」, 『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 25 号, pp. 95~107, (2012)
7. 荒木晃子, 「生殖医療と里親・養親—家族支援地域ネットワークの実践報告—」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 111~124, (2013)
8. 岡部茜・青木秀光・深谷弘和・斎藤真緒「ひきこもる若者の語りに見る"普通"への囚われと葛藤—ひきこもる若者へのインタビュー調査から—」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 25 号, pp. 67~80, (2012)
9. 岡本直子, 「心理臨床のプロセスをとらえる調査モデルの可能性」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 25 号, pp. 33~46, (2012)
10. 岡本直子, 「グループ箱庭を通して得られる心的体験とパーソナリティとの関連性」, 『立命館大学心理・教育相談センター年報』, 立命館大学心理・教育相談センター, 11 号, pp. 3~12, (2012)
11. Wataru Ozawa, Yukifumi Makita, Koichi Higuchi, Kuniko Ishikawa, Hiroko Yamada, Martha Mensendiek, Eiji Ogawa, Hiroshi Kato, "Volunteer Support Network for Elderly Foreigners: A New Movement of Korean Residents in Kyoto", 『立命館産業社会論集』 48 巻 3 号, pp. 19~40. (2012)
12. Wataru Ozawa, "Comparative Study on Volunteerism of Youth in Japan, Korea and Canada: Civil Society and Volunteer Problems" *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*, 立命館大学人文科学研究所, Vol. 5, pp. 125~143. (2013)
13. 小澤亘, 「日本・韓国・カナダ 3 カ国における青年ボランティア文化比較研究 —市民社会とボランティア問題—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 立命館大学人文科学研究所, 99 号, pp. 183~212, (2013)
14. 北岡明佳・蘆田宏, 「近年の錯視研究の展開 - - 巻頭言に代えて - - 」, 『心理学評論』, 京都大学心理学評論刊行会, 55 号, pp. 289~295, (2012)
15. 北岡明佳, 「色の錯視いろいろ (4) 簡単に錯視量の多い色相の錯視図形の作り方」, 『日本色彩学会誌』, 日本色彩学会, 36 巻 1 号, pp. 45~46, (2012)
16. 北岡明佳, 「色の錯視いろいろ (5) 黄ばみ錯視」, 『日本色彩学会誌』, 日本色彩学会, 36 巻 2 号, pp. 126~127, (2012)
17. 北岡明佳, 「色の錯視いろいろ (6) 図地分離による錯視」, 『日本色彩学会誌』, 日本色彩学会, 36 巻 3 号, pp. 237~238, (2012)
18. 北岡明佳, 「色の錯視いろいろ (7) 図地分離による錯視・その 2」, 『日本色彩学会誌』, 日本色彩学会, 36 巻 4 号, pp. 306~307, (2012)
19. 北岡明佳, 「色の錯視いろいろ (8) 「色の錯視の色の錯視」」, 『日本色彩学会誌』, 日本色彩学会, 37 巻 1 号,

- pp. 49~51, (2013)
20. 木戸彩恵, 「化粧による心理支援へのナラティブ・プラクティスの応用的展開の可能性」, 『日本顔学会誌』日本顔学会, 12 巻, pp. 65~72, (2012)
 21. 木原香代子・織田涼・八木保樹, 「顔と職業の印象一致度が人物の認知に及ぼす影響」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 25 号, pp. 47~58, (2012)
 22. 京屋郁子, 「カテゴリを明示的に区別しない特異で冗長な情報がカテゴリ化に与える影響」, 『認知心理学研究』, 日本認知心理学会, 9 巻 2 号, pp. 81~95, (2012)
 23. 呉宣児・竹尾和子・片成男・高橋登・山本登志哉・サトウタツヤ, 「日韓中越における子ども達のお金・お小遣い・金銭感覚:豊かさと人間関係の構造」, 『発達心理学研究』, 日本発達心理学会, 23 巻 4 号, pp. 415~427, (2012)
 24. Tatsuya Sato, Takuya Nakatsuma, Norika Matsubara, “Influences of G. Stanley Hall on Yuzero Motora as the First Psychology Professor in Japan. How kymograph as a motor made enough energy to power Motora’s career in psychology” , *American Journal of Psychology*, Vol. 125, no. 4, pp. 395~407, (2012)
 25. Ryoji Shinohara, Yuka Sugisawa, Lian Tong, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Yoko Onda, Yuri Kawashima, Maki Hirano, Etsuko Tomisaki, Yukiko Mochizuki, Kentaro Morita, Gan-Yadam Amarsanaa, Yuko Yato, Noriko Yamakawa, Tokie Anme, “Influence of Maternal Praise on Developmental Trajectories of Early Childhood Social Competence” , *Creative Education*, Vol. 3, pp. 533~539, (2012)
 26. 菅野晃子・谷晋二, 「発達障がい児をもつ保護者への心理的支援—ACT ワークショップによる効果から—」 『立命館人間科学研究』 立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 9~20, (2013)
 27. Stevanov, J., Marković, S., Akiyoshi Kitaoka, “Aesthetic valence of visual illusions” , *i-Perception*, Pion, Vol. 3, no. 2, pp. 112~140, (2012)
 28. Stevanov, J., Spehar, B., Ashida, H., and Kitaoka, A, “Anomalous motion illusion contributes to visual preference” , *Frontiers in Perception Science*, Frontiers, Vol. 3, Article 528, pp. 1~11, (2012)
 29. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎, 「学習活動の遂行によって認知症高齢者の抑制機能を改善できるか」, 『高齢者のケアと行動科学』, 老年行動科学研究会編集委員会, 17 巻, pp. 2~13, (2012)
 30. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎, 「3 年間にわたる研究高齢者の記憶の変化: 短期記憶と作業記憶を中心とした検討」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 1~8, (2013)
 31. 竹内謙彰, 「高機能自閉症スペクトラム障害者の特別なニーズ—青年期後期~成人期の子どもを持つ母親に対するインタビューに基づく分析—」, 『心理科学』, 心理科学研究会, 33 巻 2 号, pp. 46~63, (2012)
 32. 竹内謙彰, 「高機能自閉症スペクトラム障害者の特別なニーズ—青年期後期~成人期の当事者に対するインタビューに基づく分析—」, 『立命館産業社会論集』, 立命館大学産業社会学会, 48 巻 4 号, (2013)
 33. Takemura, H., Ashida, H., Amano, K., Kitaoka, A., and Murakami, I., “Neural correlates of induced motion perception in the human brain” , *Journal of Neuroscience*, Vol. 32, no. 41, pp. 14344~14354, (2012)
 34. 立岩真也, 「後ろに付いて拾っていくこと+すこし——震災と障害者病者関連・中間報告」, 『福祉社会学研究』, 福祉社会学会, 9 号, pp. 81~97, (2012)
 35. Emiko Tanaka, Etsuko Tomisaki, Ryoji Shinohara, Yuka Sugisawa, Lian Tong, Taeko Watanabe, Yoko Onda, Yuri Yauchi, Maki Hirano, Yukiko Mochizuki, Kentaro Morita, Amarsanaa Gan-Yadam, Yuko Yato, Noriko Yamakawa, Tokie Anme & Japan Children’s Study Group, “Factors related to social competence development of thirty-month-old toddlers: longitudinal perspective” , *Japanese Journal of Human Sciences of Health-Social Services*, Vol. 19, no. 1, pp. 21~30, (2013)
 36. 對梨誠一・北岡明佳, 「縦断勾配錯視の研究」, 『心理学評論』, 京都大学心理学評論刊行会, 55 巻 3 号, pp. 400~409, (2012)
 37. 筒井淳也, 「公的セクターへの信頼の分析: 世界価値観調査による国際比較を通じた日本の特徴」, 『立命館産業社会論集』, 立命館大学産業社会学会, 47 巻 4 号, pp. 47~67, (2012)
 38. 筒井淳也, “East Asian Welfare Model and Its Discontents: A Theory of Twin Mismatches in Labor and the Marriage Market” , *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*, 立命館大学人文科学研究

- 所, Vol. 5, pp. 99~111, (2013)
39. 都賀美有紀・星野祐司, 「順序記憶の短期的保持における語長効果: 項目と順序の符号化におけるトレードオフ仮説に関する検討」, 『基礎心理学研究』, 日本基礎心理学会, 31 巻 1 号, pp. 12~23, (2012)
 40. 滑田明暢・サトウタツヤ, 「家事と稼ぎ手と育児役割実践の理解—類型による役割分担の形態と心理的評価の包括的検討—」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 63~76, (2013)
 41. Akinobu Nameda, Kosuke Wakabayashi, Takuya Nakatsuma, Tomomi Hatano, Shinya Saito, Mitsuyuki Inaba, Tatsuya Sato, “Learning Lessons from Natural Disaster: Visualizing and Understanding Digital Archives for Great Earthquake in Eastern Japan” Proceedings of 4th International Conference of Digital Archives and Digital Humanities, National Taiwan University, pp. 97~114. (2012)
 42. 東山篤規・下野孝一, “Apparent depth of pictures reflected by a mirror: The plastic effect” , *Attention, Perception, & Psychophysics*, Psychonomic Society, Vol. 74, pp. 1522~1532, (2012)
 43. 深谷弘和・山本耕平, 「大型地域災害時ノプロ外部支援者を対象とした支援前後ケアの検討—外部支援者の揺らぎと育ちに注目して—」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 77~88, (2013)
 44. Funder, D. C., Guillaume, E., Kumagai, S., Kawamoto, S. and Sato, T., “The Person-situation Debate and the Assessment of Situations” , *Japanese Journal of Personality*, Vol. 21, pp. 1~11, (2012)
 45. 松島京・松浦崇, 「外国につながるのある子どもの教育と保育をめぐる課題」, 『近大姫路大学教育学部紀要』, 近大姫路大学教育学部, 4 号, pp. 91~100, (2013)
 46. 松原美香・サトウタツヤ, 「対象、評価、情動の観点から検討する「萌え」」, 『立命館人間科学研究』立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 21~34, (2013)
 47. 松原洋子・植村要, 「未校正書籍テキストデータの読書アクセシビリティ—大学図書館における読書障害学生支援に向けて—」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 26 号, pp. 99~110, (2013)
 48. 松本克美, 「障がい児を産まない権利? 障がい児として生まれない権利?」, 『ジェンダーと法』, ジェンダー法学会, 9 号, pp. 105~114, (2012)
 49. 松本克美, 「実定法教育への臨床的視点の導入—立命館大学法科大学院・民法演習の試み—」, 『法曹養成と臨床教育』, 臨床法学教育学会, 5 号, pp. 163~167, (2012)
 50. 村本邦子, 「ビシッと効く叱り方」, 『PHP のびのび子育て』, PHP 研究所, pp. 28~35, (2012)
 51. 村本邦子, 「DV と子ども」, 『子どもの心と学校臨床』, 遠見書房, 8 号, pp. 52~59, (2013)
 52. 山田早紀, 「供述調書の理解を促進するツールの有用性と検討—裁判員の理解支援をめざして—」, 『立命館大学人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 25 号, pp. 15~32, (2012)
 53. 山本耕平, 「ひきこもり支援の哲学と方法をめぐって—若者問題をむぐる韓日比較調査から (第 2 報) Yooja Salon の実践を通して—」, 『立命館産業社会論集』, 立命館大学産業社会学会, 48 巻 2 号, pp. 1~20, (2012)
 54. 若林宏輔・サトウタツヤ, 「寺田精一の実験研究から見る大正期日本の記憶研究と供述心理学の接点」, 『心理学研究』, 日本心理学会, 83 巻 3 号, pp. 174~181, (2012)
 55. 若林宏輔・指宿信・小松加奈子・サトウタツヤ, 「録画された自白: 日本独自の取調べ録画形式が裁判員の有罪判断に与える影響」, 『法と心理』, 日本評論社, 12 巻 1 号, pp. 89~97, (2012)

図書

②論文 (査読なし)

雑誌論文

1. 天田城介, 「胃ろうの 10 年—ガイドライン体制のもとグレーゾーンで処理する尊厳死システム」, 『現代思想』, 青土社, 40 巻 7 号, pp. 165~181, (2012)
2. 天田城介, 「ポスト経済成長時代の超高齢社会における夢から覚めて」, 『現代思想』, 青土社, 40 巻 10 号, pp. 170~186, (2012)
3. 天田城介, 「体制の歴史を描くこと—近代日本における乞食のエコノミー」, 『生存学研究センター報告』, 立命館大学生存学研究センター, 17 号, pp. 408~427, (2012)

4. 天田城介, 「依存的な親子関係」に混迷する介護問題, 『訪問看護と介護』, 医学書院, 17 巻 2 号, pp. 113~118, (2012)
5. 天田城介, 「紛争家族化する戦後日本型家族の行方」, 『JIM』, 医学書院, 22 巻 11 号, pp. 826~827, (2012)
6. 荒木穂積, 「自閉症研究の最近の動向について」, 『日本ベトナム障害児教育・福祉研究』, 日本ベトナム有効障害児教育・福祉セミナー実行委員会, 11 号, pp. 33~38, (2013)
7. 荒木穂積, 「自閉症研究の最近の動向について」, 『日本ベトナム障害児教育・福祉研究』, 日本ベトナム有効障害児教育・福祉セミナー実行委員会, 10 号, pp. 3~10, (2012)
8. 大谷いづみ, 「犠牲を期待される者——「死を掛け金に求められる承認」という隘路」, 『現代思想』, 青土社, 40 巻 7 号, pp. 198~209, (2012)
9. 春日井敏之, 「青年期の学びと生き方—学びや体験を意味付ける」, 『季刊ひろば』, 京都教育センター, 169 号, pp. 22~27, (2012)
10. 春日井敏之, 「つまずいた子どもを支える先生—困難からの回復力とつながりの実感」, 『児童心理』, 児童研究会, 944 号, pp. 97~102, (2012)
11. 春日井敏之, 「「いじめ問題」のいまを問う—子どもの世界と実践的課題」, 『補導だより』, 京都府少年補導協会, 303 号, pp. 6~9, (2012)
12. 春日井敏之, 「「いじめ問題」から見える子どもの世界と実践的課題」, 『生活教育』, 日本生活教育連盟, 769 号, pp. 44~52, (2012)
13. 北岡明佳, 「顔の錯視のレビュー」, 『BRAIN and NERVE 神経研究の進歩』, 医学書院, 64 巻 7 号, pp. 779~791, (2012)
14. 北岡明佳, 「フレーザー・ウィルコックス錯視族の現象とモデル」, 『電子情報通信学会技術研究報告』, 電子情報通信学会, 112 巻 168 号, pp. 57~60, (2012)
15. 小泉義之, 「田辺元のコミュニズム」, 『思想』, 岩波書店, 1053 号, pp. 184~196, (2012)
16. 斎藤真緒, 「現代的課題としての家族介護者支援」, 『共同対人援助モデル研究』, 立命館大学人間科学研究所, 4 号, pp. 3~10, (2012)
17. 斎藤真緒, 「イギリスの介護者支援—仕事と介護との両立を中心に」, 『共同対人援助モデル研究』, 立命館大学人間科学研究所, 2 号, pp. 5~15, (2012)
18. 下野孝一・東山篤規, “Editorial: Three dimensional visual space: Phenomena, theories, and applications”, *Japanese Psychological Research*, Japanese Psychological Association, Vol. 40, pp. 805~821, (2012)
19. 高垣忠一郎, 「自分を好きになれない」, 『児童心理』, 児童研究会, 953 号, p. 5, (2012)
20. 立岩真也, 「制度と人間のこと・8——連載 86」, 『現代思想』, 青土社, 41 巻 2 号, pp. 22~33, (2013)
21. 立岩真也, 「素朴唯物論を支持する——連載 85」, 『現代思想』, 青土社, 41 巻 1 号, pp. 14~26, (2013)
22. 立岩真也, 「制度と人間のこと・7——連載 84」, 『現代思想』, 青土社, 40 巻 12 号, pp. 22~23, (2012)
23. 立岩真也, 「制度と人間のこと・6——連載 83」, 『現代思想』, 青土社, 40 巻 11 号, pp. 22~23, (2012)
24. 立岩真也, 「制度と人間のこと・5——連載 82」, 『現代思想』, 青土社, 40 巻 10 号, pp. 40~52, (2012)
25. 谷晋二, 「精神科入院治療における認知行動療法の第一歩」, 『日本精神科病院協会雑誌』, 日本精神科病院協会, 31 巻 12 号, pp. 12~17, (2012)
26. 谷晋二, 「発達障がい児の保護者支援—保護者のレジリエンスを高める ACT の子育て—」, 『臨床心理学』, 金剛出版, 12 巻 5 号, pp. 647~657, (2012)
27. 谷晋二・北村琴美, 「発達障がいのある子どもを持つ母親に対する ACT の実践」, 『自閉症スペクトラム研究 実践報告集』, 日本自閉症スペクトラム学会, 10 巻 4 号, pp. 5~13, (2013)
28. 筒井淳也, 「公的セクター雇用における女性労働とワーク・ライフ・バランス」, 『社会科学研究』, 東京大学社会科学研究所, 64 巻 1 号, pp. 155~173, (2012)
29. 筒井淳也, 「マルチレベル分析を有効活用するには」『社会と調査』, 社会調査協会, 9 号, pp. 102~106, (2012)
30. Tuukka Toivonen, Junya Tsutsui, Haruka Shibata, “New Risks, Old Welfare: Japanese University Students,

- Work-related Anxieties and Sources of Support ” , *RIEB Discussion Paper Series*, Kobe University, Vol. 17, pp. 1~27, (2012)
31. 中村正, 「連載: 社会臨床の視界 (9) ケア・リーバー Care Leaver たちー「忘れられたオーストラリア人」への謝罪から考える」, 『対人援助学マガジン』, 日本対人援助学会, 3 巻 1 号, pp. 14~25, (2012)
 32. 中村正, 「連載: 社会臨床の視界 (10) ソーシャル・ナラティブと社会臨床ー変わりにくい日常という物語を書き換えることの重要性と社会の物語構造に着目することの意義について」, 『対人援助学マガジン』, 日本対人援助学会, 3 巻 2 号, pp. 15~26, (2012)
 33. 中村正, 「連載: 社会臨床の視界 (11) 日常に潜む暴力」, 『対人援助学マガジン』, 日本対人援助学会, 3 巻 3 号, pp. 17~30, (2012)
 34. 中村正, 「連載: 社会臨床の視界 (12) 暴力を振るうものたちの「言い訳」の分析ー脱暴力への認知再構成の手がかりと修復の課題の生成にむけてー」, 『対人援助学マガジン』, 3 巻 4 号, 日本対人援助学会, pp. 16~27, (2013)
 35. 廣井亮一・河野聡・河野聖子・坂野剛崇・指宿信, 「司法臨床の展開 (第一報)ー弁護士と臨床心理士の協働」, 『法と心理』, 日本評論社, 12 巻 1 号, pp. 56~61, (2012)
 36. ホルヘ・フェレール著, 中川吉晴・吉嶋かおり訳, 「完全に身体化された霊的生を生きるとは、どのようなことなのか」, 『トランスパーソナル心理学・精神医学』, 日本トランスパーソナル心理学/精神医学会, 12 巻 1 号, pp.73~89, (2012)
 37. 松田亮三, 「「終末期医療」の「配給」をめぐる議論に向けてー日英の対比から」, 『生存学』, 立命館大学生存学研究センター, 5 巻, pp. 195~205, (2012)
 38. 松田亮三, 「普遍主義的医療制度における公私混合供給の展開ースウェーデンにおける患者選択制の検討」, 『海外社会保障研究』, 国立社会保障・人口問題研究所, 178 号, pp.4~20, (2012)
 39. 松原洋子, 「『科学史研究』初期の編集・発行状況ー創刊から休刊まで (1941~1944 年)」, 『科学史研究』, 日本科学史学会, 51 巻 262 号, pp. 102~105, (2012)
 40. 村本邦子, 「人間科学と平和教育ー体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の取り組みから」, 『共同対人援助モデル研究』, 立命館大学人間科学研究所, 5 号, pp. 8~13, (2012)
 41. 村本邦子, 「国際シンポジウム・ワークショップ「人間科学と平和教育ー体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から」を開催してーHWH のこれから」, 『共同対人援助モデル研究』, 立命館大学人間科学研究所, 5 号, pp. 157~166, (2012)
 42. 村本邦子, 「いま、家族を問うー家族は変わったか?」, 『女性ライフサイクル研究』, 女性ライフサイクル研究所, 22 号, pp. 5~11, (2012)
 43. 村本邦子, 「対人援助学」のすすめ」, 『人権のひろば』, 人権擁護協会, 15 巻 4 号, pp. 17~19, (2012)
 44. 山口翔・青木千帆子・植村要・松原洋子, 「電子書籍アクセシビリティに関する出版社アンケート」, 『国際公共経済研究』, 国際公共経済学会, 23 号, pp. 244~255. (2012)
 45. 山本耕平, 「障害児者福祉現場のメンタルヘルス調査」, 『リハビリテーション研究』, 日本障害者リハビリテーション協会, 153 号, pp. 21~23, (2012)
 40. Lian Tong, Ryoji Shinohara, Yuka Sugisawa, Emiko Tanaka, Yuko Yato, Noriko Yamakawa, Tokie Anme, “Early Development of Empathy in Toddlers: Effects of Daily Parent–Child Interaction and Home-Rearing Environment” , *Journal of Applied Social Psychology*, Scripta Publishing Co., Vol. 42, pp. 1~22, (2012)

図書

1. 秋葉武, 「日本の共済協同組合の歴史」・「アジア・オセアニアの協同組合」, 中川雄一郎他編『協同組合を学ぶ』, 日本経済評論社, 229p. (2012)
2. 秋葉武他 (編著), 『危機の時代の市民活動: 日韓社会的企業最前線』, 東方出版, 296p. (2012)
3. 天田城介, 「自律」・「PTSD」, 大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一 (編) 『現代社会学事典』, 弘文堂, 1640p. (2012)
4. 天田城介・村上潔・山本崇記 (編), 『差異の繋ぎ点ー差別を読み解く』, ハーベスト社, 298p. (2012)
5. 天田城介, 『古い衰えゆく自己の／と自由ー高齢者ケアの社会的実践論・当事者論 (第二版)』, ハーベスト

- 社, 230p. (2013)
6. 荒木穂積・グエン・ティ・ホアン・イエン・黄辛隠, 『共同体人援助モデル研究9 東アジアにおける自閉症スペクトラムとその家族の現状』, 立命館大学人間科学研究所, 216p. (2013)
 7. 大谷いづみ, 「患者および一般市民のための生命倫理教育」, 伴信太郎・藤野昭宏編『医療倫理教育』(シリーズ生命倫理学第19巻), 丸善, 255p. (2012)
 8. 大谷いづみ, 「生命倫理・環境倫理」, 日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』, ぎょうせい, 435p. (2012)
 9. 大谷いづみ, 「尊厳死」, 高橋恵子他編『発達科学入門3 青年期～後期高齢期』, 東京大学出版会, 291p. (2012)
 10. 北岡明佳(監修)・ワード(構成・文), 『錯覚の大研究』, PHP 研究所, 64p. (2012)
 11. 小泉義之, 『生と病の哲学 生存のポリティカルエコノミー』, 青土社, 390p. (2012)
 12. サトウタツヤ, 『学融とモード論の心理学——人文社会科学における学問融合をめざして』, 新曜社, 306p. (2012)
 13. サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵, 『社会と向き合う心理学』, 新曜社, 336p. (2012)
 14. サトウタツヤ・鈴木朋子・荒川歩, 『ポイントシリーズ 心理学史』, 学文社, 164p. (2012)
 15. サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵(編), 『社会と向き合う心理学』, 新曜社, 336p. (2012)
 16. Tatsuya Sato, Mari Fukuda, Tomo Hidaka, Ayae Kido, Miki Nishida and Mayu Akasaka, “The Authentic Culture of Living Well: Pathways to psychological well-being” *Oxford Handbook of Culture and Psychology*, Oxford University Press, pp1078-1092. (2012)
 17. 新・社会福祉士養成講座編集委員会編(編集委員:天田城介・後藤隆・潮谷有二), 『社会調査の基礎[第3版] 『新・社会福祉士養成講座』第5巻』, 中央法規出版, 193p. (2013)
 18. 立岩真也「多様で複雑でもあるが基本は単純であること」, 安積純子・尾中文哉・岡原正幸・立岩 真也『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学 第3版』, 生活書院, pp. 499-548. (2012)
 19. 立岩真也・有馬斉, 『生死の語り行い・1——尊厳死法案・抵抗・生命倫理学』, 生活書院, 241p. (2012)
 20. 立岩真也・安積純子・尾中文哉・岡原正幸『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学 第3版』, 生活書院, 366p. (2012)
 21. 立岩真也・有馬斉, 『生死の語り行い・1——尊厳死法案・抵抗・生命倫理学』, 生活書院, 230p. (2012)
 22. 立岩真也・堀田義太郎, 『差異と平等——障害とケア／有償と無償』, 青土社, 342p. (2012)
 23. 谷晋二, 『はじめはみんな話せない』, 金剛出版, 209p. (2012)
 24. 筒井淳也, 「コラム「グラノベッター『転職』」」, 金井雅之・小林盾・渡邊大輔(編)『社会調査の応用: 量的調査編: 社会調査士E・G科目対応』, 弘文堂, 262p. (2012)
 25. 筒井淳也, “Gender Segregation of Housework”, Sigeto Tanaka ed. *A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families*, Tohoku University Press, pp. 123~146, (2013)
 26. 津止正敏・鎌田松代・斎藤真緒編, 『共同体人援助モデル研究8 「介護退職ゼロ作戦」という社会運動』, 立命館大学人間科学研究所, 156p. (2013)
 27. 中村正, 「ハラスメント加害者」, 廣井亮一編, 『加害者臨床』, 日本評論社, pp. 104~113, (2012)
 28. 服部雅史, 「推論と意思決定」, 箱田裕司編『心理学研究法2 認知』, 誠信書房, pp. 149~195, (2012)
 29. 服部雅史, 「思考」, 田山忠行・須藤昇編, 『基礎心理学入門』, 培風館, pp. 183~201, (2012)
 30. 東山篤規, 『体と手がつくる知覚世界』, 勁草書房, 241p. (2012)
 31. 東山篤規, 「知覚的推理理論の[適用事例]」, 中島義明編『現代心理学[事例]事典』, 朝倉書店, pp. 139~158, (2012)
 32. 廣井亮一(編著), 『加害者臨床』, 日本評論社, 252p. (2012)
 33. 廣井亮一, 『司法臨床入門—家裁調査官のアプローチ(増補第2版)』, 日本評論社, 257p. (2012)
 34. 廣井亮一, 『カウンセラーのための法と臨床—離婚・虐待・非行の問題解決に向けて』, 金子書房, 218p. (2012)
 35. 福田茉莉・安田裕子・サトウタツヤ編, 『共同体人援助モデル研究6 変容する語りを記述するための質的研究法』, 立命館大学人間科学研究所, 95p. (2013)
 36. 筒井淳也, 「メディアと社会の理論」, 浪田陽子・福岡良明編『はじめてのメディア研究』, 世界思想社, 288p. (2012)

37. 青野篤子・村本邦子（監訳）『発達心理学の脱構築』, ミネルヴァ書房, 449p. (2012)
38. 中川吉晴, 「第5章 教育におけるスピリチュアリティ——その成立と展開」, 櫻尾直樹編, 『霊性と文化』, 慶應義塾大学出版会, 273p. (2012)
39. 中川吉晴, 「サイコシンセシス」・「全体論」・「ホリスティック教育」, 日本人間性心理学会編『人間性心理学ハンドブック』, 創元社, pp. 314~315, 353, 418~419, (2012)
40. 松田亮三, "The Japanese Health Care System", Thomson, S., Osborn, R., Squires, D. and Jun, M. *International Profiles of Health Care Systems*, The Commonwealth Fund, pp. 66~71, (2012)
41. 松田亮三・土田宣明, 『共同体人援助モデル研究 10 持続的対人援助に向けた地域資源としての大学』, 立命館大学人間科学研究所, 143p. (2013)
42. 松本克美, 『続・時効と正義 — 消滅時効・除斥期間論の新たな展開』, 日本評論社, p. 328. (2012)
43. 村本邦子, 「アメリカにおけるDV防止への取り組みの変遷」・「コミュニティ・セラピストによる支援」, 高島克子（編著）『DVはいま～協働による個人と環境への支援』, ミネルヴァ書房, pp. 18-34. (2013)
44. 安田裕子・サトウタツヤ（編）, 『TEMでわかる人生の径路 質的研究の新展開』, 誠信書房, 262p. (2012)
45. 矢藤優子, 「2 節 自己意識の形成」, 二宮克美・浮谷秀一・堀毛一也・安藤寿康・藤田主一・小塩真司・渡邊芳之（編著）, 『パーソナリティ心理学ハンドブック』, 福村出版, 782p. (2013)
46. 山本耕平, 『ともに生き ともに育つ ひきこもり支援—協同的關係性とソーシャルワーカー』, かもがわ出版, 176p. (2013)
47. 山本耕平編, 『共同体人援助モデル研究7 “ふつう” への適応からユニークな参加の創造へ—韓日若者支援の現状と課題—』, 立命館大学人間科学研究所, 116 (2013)

2) 学会発表

①海外での発表

1. Hiroshi Utsunomiya, "Consciousness of birth of a child in married young adults : Associations with marital commitment and exposure to interparental conflict", 6th Congress of the European Society on Family Relations, Lillehammer, Norway, 2012年9月26日~29日
2. Masaomi Oda, "Perception of consonance about harmonious sounds", IEEE SMC2012, Seoul, Korea, 2012年10月14日~17日
3. Shinji Tani, Kotomi Kitamura, "Case Presentation: A parent of a child with disabilities", ACBS Annual World Conference X, Washington, D. C., Association For Contextual Behavioral Science, 2012年7月22日
4. Junya Tsutsui, Maki Takeuchi, "Disaggregating Housework: An International Comparison of Gendered Segregation of Household Labor", 2012 Annual Meeting of Population Association of America, San Francisco, United States of America, 2012年5月3日~5日
5. Ikuko Hattori, Masasi Hattori, "The effects of attention and working memory on causal judgment", The 30th International Congress of Psychology, Cape town, Republic of South Africa, 2012年7月23日
6. 中川吉晴, 「ホリスティック教育による学校暴力対策」, 韓国ホリスティック教育学会, 城南市, 韓国, 2012年5月18日
7. Masasi Hattori, Sloman, S. A., Ryo Orita, "Effects of unrecognized hints and metacognitive control in insight problem solving", The 30th International Congress of Psychology, Cape town, Republic of South Africa, 2012年7月23日
8. Shohei Hirose, Yuko Yato, "Developmental changes in young children's self assertion: Observation in free play situations", The 30th International Congress of Psychology, Cape town, Republic of South Africa, 2012年7月23日
9. Atsuki Higashiyama, "The effects of size, duration, and luminance of a visual line on apparent vertical while the head was tilted", The 35th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception, Alghero, Italy, 2012年9月2日~6日
10. Ryoza Matsuda, Toshitaka Nakahara, "Changing Roles of Social Health Insurers in Delivering Public Health

- Services” ,The 13th World Congress on Public Health,Addis Ababa, Ethiopia,2012年4月23日~27日
11. Ryoza Matsuda,“Divided and Universal: Gradual Changes in Japanese Health Insurance” ,The 22nd World Congress of International Political Science Association” ,The 22nd World Congress of International Political Science Association, Universidad Complutense de Madrid at the Moncloa Campus, Madrid, 2012年7月8日~12日
 12. Ryoza Matsuda,“Changing roles of social health insurers in delivering public health services” ,Health Systems and Policy Monitor Networking meeting,Rome, Italy, 2012年11月20日~21日
 13. Ryoza Matsuda,“Changing roles of social health insurers in delivering public health services”, Health Systems and Policy Monitor Networking meeting, Universita' Cattolica del Sacro Cuore, Rome, 2012年11月22日~23日
 14. Yuko Yato, Shohei Hirose,“Quantitative dynamic analysis of developmental changes in children’ s drawings and writings through the Digital Pen. ” ,The 30th International Congress of Psychology, Cape town, Republic of South Africa,2012年7月23日

②国内での発表

1. 秋葉武,「韓国の社会的企業政治と市民社会」,日本NPO学会第15回年次大会,東京都・東洋大学,2013年3月19日
2. 荒木穂積・荒木美知子・竹内謙彰,「発達障害をもつ子どもの親の障害受容プロセスの検討ーナラティブ分析とライフラインメソッド」,対人援助学会第4回年次大会,神奈川県・神奈川県立保健福祉大学,2012年12月8日
3. 荒木美知子・張鋭・荒井庸子・前田明日香・井上洋平・荒木穂積・竹内謙彰,「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(5)ー中国(蘇州市)における学齢児の親のニーズの分析からー」,日本発達心理学会第24回大会,東京都・明治学院大学,2013年3月15日~17日
4. 天田城介,「アンダーミドル論——行き場のないアンダーミドルはどうやって生きてきたのか」,第28回日本社会病理学会大会シンポジウム,大阪市・大阪市立大学,2012年9月29日~30日
5. 石川真理子・坂口佳江・孫琴・高橋伸子・宮田正子・吉村昌子・吉田甫・土田宣明・大川一郎,「学習活動を支える新規サポーターに関する研究」,日本老年行動科学学会第15回大会,東京都・筑波大学文京校舎,2012年10月14日
6. 井篠和之・松山洋輔・張敏芝・董石・鏡原崇史・山路美波・松本佑・荒木穂積・竹内謙彰,「自閉症スペクトラム児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(3)ー中学生期:協働と自主性ー」日本発達心理学会第24回大会,東京都・明治学院大学,2013年3月15日~17日
7. 乾明紀・望月昭・植島淳・岸本光平,「訪問介護事業におけるサービス提供責任者を中心とした組織改革(中間報告)ーヘルパーの能力開発と利用者のQOL拡大を目指してー」,対人援助学会第4回大会,横須賀市・神奈川県立保健福祉大学,2012年12月8日
8. 上村晃弘・白石理佐・サトウタツヤ,「ソーシャルメディアにおける震災後の地震予知流言」,日本質的心理学会第9回大会,神奈川県・東京都市大学,2012年9月1日~2日
9. 尾田政臣,「楽曲の選好度が音質評価に与える影響」,日本心理学会第76回大会,神奈川県・専修大学,2012年9月11日~13日
10. 尾田政臣,「特徴の出現頻度がカテゴリ学習と典型性評定に与える影響」,日本認知科学学会第29回大会,仙台市・仙台国際センター,2012年12月15日
11. 宇都宮博,「中高年者のメンタルヘルスと配偶者の存在意味ー人生半ばを生きる夫婦を結びつけているものとはー」,「夫婦の感情とシステムー夫婦はどのようにして危機を乗り越えるのかー(話題提供)」,第29回日本家族心理学会,東京都・東京学芸大学,2012年7月14日~16日
12. 大谷いづみ,「生・老・病・死の言説構造と生命倫理教育/死生観教育」,第24回日本生命倫理学会年次大会企画シンポジウム「生命倫理教育の再考」,京都市・立命館大学,2012年10月27日~28日

13. 尾西洋平・中鹿直樹・林炫廷・太田隆士・乾明紀・望月昭,「累積記録を用いたスケジュールの自己管理行動の表現」,対人援助学会第4回大会、横須賀市・神奈川県立保健福祉大学,2012年12月8日
14. Ryo Orita, Masasi Hattori,「Effects of supraliminal and subliminal hint priming on insight problem solving」,The 34th Annual Meeting of the Cognitive Science Society,札幌市・札幌コンベンションセンター,2012年8月1日~4日
15. 梶原渉・服部雅史,「行為性と人物特性が道徳性判断に与える影響」,日本心理学会第76回大会,神奈川県・専修大学,2012年9月11日~13日
16. 春日井敏之,「『いじめ問題』から見える子どもの世界と実践的課題」,教育人間学会第6回大会,京都市・立命館大学,2013年1月26日
17. 春日秀朗・渡邊卓也・富岡沙希・宇都宮 博・サトウタツヤ,「帯同赴任から単身赴任を選択するまでのプロセス—母親の語りを通して—」,日本質的心理学会第9回大会,神奈川県・東京都市大学,2012年9月
18. 北岡明佳,「赤いフレーザー・ウィルコックス錯視を用いたデザイン」,日本色彩学会第43回全国大会,京都市・京都大学,2012年5月25日~27日
19. 北岡明佳,「視線方向の知覚における左右の異质性」,日本視覚学会 2012 年夏季大会,山形県・山形大学,2012年8月7日
20. 北岡明佳,「色依存の静止が動いて見える錯視と逆錯視」,日本視覚学会 2013 年冬季大会,東京都・工学院大学,2013年1月23日~25日
21. 國友万裕・中村正,「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(その1)」,第4回日本対人援助学会,神奈川県・神奈川県立保健福祉大学,2012年12月8日
22. 國友万裕・中村正,「傷ついた男性性からの回復」,第4回日本対人援助学会,神奈川県・神奈川県立保健福祉大学,2012年12月8日-
23. 京屋郁子・尾田政臣,「The influence of redundant and idiosyncratic attributes on coherence within a category and contrast between categories」,The 34th Annual Meeting of the Cognitive Science Society,札幌市・札幌コンベンションセンター,2012年8月1日~4日
24. 京屋郁子,「概念における事例の働き—冗長な特徴の影響をとおした検討」,日本心理学会第76回大会,神奈川県・専修大学,2012年9月11日~13日
25. 小島遼・中鹿直樹・乾明紀・望月昭,「障がい者の就労場面において他者を教える行動がもたらす効果」,対人援助学会第4回大会,横須賀市・神奈川県立保健福祉大学,2012年12月8日
26. 櫻谷真理子,「児童養護施設におけるアフターケアの現状と課題」,日本生活指導学会第30回大会,京都市,2012年9月2日
27. 佐々木幸子・三井若奈・松井由香里・安田祥子・松元梨沙・春日彩花・富井菜々美・荒井庸子・中原咲子・竹内謙彰・荒木穂積,「自閉症児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(1)—幼児期・小学校低学年:見立てとごっこ—」日本発達心理学会第24回大会,東京都・明治学院大学,2013年3月15日~17日
28. 孫琴・高橋伸子・石川真理子・宮田正子・坂口佳江・吉村昌子・小田博子・吉田甫・土田宣明・大川一郎,「学習活動を支えるサポーターの日常生活の変化について」,日本老年行動科学学会第15回大会,東京都・筑波大学文京校舎,2012年10月14日
29. 孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎・高橋伸子・石川真理子・宮田正子・吉村昌子・坂口佳江,「健康高齢者の認知機能への介入—遅延効果—」,日本心理学会第76回大会,神奈川県・専修大学,2012年9月11日~13日
30. 孫琴,「健康高齢者の抑制機能の低下および可塑性に関する研究」,日本心理学会第76回大会,神奈川県・専修大学,2012年9月11日~13日
31. 高尾美紀・仲野沙也加・荒木久理子・大林奈央・河邊光・山口真名美・劉爽朗・前田明日香・荒木美知子・坂口扶仁子・竹内謙彰・荒木穂積「自閉症スペクトラム児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(2)—小学校中・高学年:ごっこ協力—」,日本発達心理学会第24回大会,東京都・明治学院大学,2013年3月15日~17日
32. 富崎悦子・田中笑子・篠原亮二・杉澤悠圭・平野真紀・渡辺多恵子・望月由妃子・矢藤優子・山川紀子・安梅

- 勅江, 「18 か月時の睡眠リズムと社会能力の発達軌跡に関する研究」, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口県・山口市民会館, 2012 年 10 月 24 日~26 日
33. 中村正, 「臨床家族社会学研究法—関与的観察の手法をととした家族システム変容の記述について」第 19 回日本家族看護学会・家族研究の方法論セッションシンポジウム招待セッション講演, 東京都・学術総合センター, 2012 年 9 月 9 日
34. Ikuko Hattori, Masasi Hattori, 「Is past information useful for evaluating present covariation information? Effect of irrelevant information on causal judgment」, The 34th Annual Meeting of the Cognitive Science Society, 札幌市・札幌コンベンションセンター, 2012 年 8 月 1 日~4 日
35. 服部雅史・服部郁子・山祐嗣, 「ワークショップ: 「真と偽を超えて(1): 推論研究の新パラダイム」」, 日本心理学会第 76 回大会, 神奈川県・専修大学, 2012 年 9 月 11 日~13 日
36. 服部雅史・服部郁子・山祐嗣, 「ワークショップ「真と偽を超えて(2): 因果推論とアブダクションにおける『空』値」」, 日本心理学会第 76 回大会, 神奈川県・専修大学, 2012 年 9 月 11 日~13 日
37. 服部雅史「洞察問題解決への閾下プライミング効果」, 日本心理学会第 76 回大会, 神奈川県・専修大学, 2012 年 9 月 11 日~13 日
38. 服部雅史・鈴木宏昭, 「ワークショップ: 「高次認知処理の自動性とコントロール」」, 日本認知科学会第 29 回大会, 仙台市・仙台国際センター, 2012 年 12 月 13 日~15 日
39. 服部雅史, 「定言三段論法の内容効果と等確率性仮定: 確率サンプリング・モデルによる検討」, 日本認知科学会第 29 回大会, 仙台国際センター, 2012 年 12 月 13 日~15 日
40. 服部雅史, 「洞察問題解決における意識的処理と無意識的処理の関係性」, 日本認知科学会第 29 回大会, 仙台市・仙台国際センター, 2012 年 12 月 13 日~15 日
41. 東山篤規・村上嵩至・佐藤敬子, 「知的作業を妨害する騒音の特徴—雑踏, 音楽, 会話の比較—」, 日本心理学会第 76 回大会, 神奈川県・専修大学, 2012 年 9 月 11 日~13 日
42. 東山篤規, 「上体の位置と触定位錯誤」, 日本心理学会第 76 回大会, 神奈川県・専修大学, 2012 年 9 月 11 日~13 日
43. 東山篤規・山崎校, 「奥行き知覚に及ぼす頭の位置の効果: きめの勾配と線遠近」, 関西心理学会第 124 回大会, 彦根市・滋賀県立大学交流センター, 2012 年 10 月 28 日
44. 東山篤規・山崎校「奥行き知覚に及ぼす頭の位置の効果: 陰影」, 関西心理学会第 124 回大会, 彦根市・滋賀県立大学交流センター, 2012 年 10 月 28 日
45. 東山篤規・村上嵩至, 「ミューラー効果に及ぼす視覚刺激の明るさの効果」, 関西心理学会 123 回大会, 亀岡市・京都学園大学, 2012 年 11 月 6 日
46. 廣井亮一他 4 名, 「障害のある非行少年の家族支援」, 第 29 回日本家族研究・家族療法学会, 山口県・山口県総合保健会館, 2012 年 6 月 1 日~3 日
47. 廣井亮一他 2 名, 「法に関わる家族と子どもの援助をめぐる—離婚・虐待・非行の問題解決のために」, 第 29 回日本家族心理学会, 東京都・東京学芸大学, 2012 年 7 月 14 日~16 日
48. 廣井亮一, 「情状鑑定と裁判員裁判」, 法と心理学会第 13 回大会, 東京都・武蔵野美術大学, 2012 年 10 月 20 日~21 日
49. 藤健一, 「ハトの体重統制法による穀類強化子の機能の分析: 繰返し測定による分析」, 日本動物心理学会第 72 回大会, 西宮市・関西学院大学上ヶ原キャンパス, 2012 年 5 月 12 日~13 日
50. 藤健一, 「定温度に設定した長期連続実験場面におけるハトの摂食・摂水行動の分析(2) —日長時間の効果: 春分から夏至, 秋分, 冬至, 再び春分まで—」, 日本心理学会第 76 回大会, 神奈川県・専修大学, 2012 年 9 月 11 日~13 日
51. 藤健一, 「Gerbrands C-1 型累積反応記録器動作模型の製作」 関西心理学会第 124 回大会, 滋賀県・滋賀県立大学, 2012 年 10 月 28 日
52. 星野祐司, 「画像の記憶における時間的遡及」, 日本心理学会第 76 回大会, 神奈川県・専修大学, 2012 年 9 月 11 日~13 日

53. 松島京・松浦崇,「就学前の外国につながるのある子どもと保護者の支援に関する研究」,日本保育学会第 65 回大会,東京都・東京家政大学,2012 年 5 月 4 日~5 日
54. 松島京・松浦崇・吉田晃高,「保育所における外国につながるのある子どもと保護者の支援」,日本対人援助学会第 4 回大会,神奈川県・神奈川保健福祉大学,2012 年 12 月 8 日
55. 松田亮三,「貧困、健康、困難をかかえる患者・コミュニティへの施策と臨床的対応の探索的研究に向けて」,日本医療経済学会第 16 回研究例会,京都市,京都私学会館,2012 年 5 月 12 日
56. 松田亮三,「普遍主義の下での分断：皆保険の変化について」,社会政策学会第 124 回(2012 年度春季)大会,東京都・駒澤大学,2012 年 5 月 26 日~27 日
57. 松田亮三,「公衆衛生サービスの日英比較分析—方法論的考察—」,第 53 回日本社会医学会総会,高槻市・関西大学,2012 年 7 月 14 日~16 日
58. 松田亮三,「健康政策の新たな展開—状況、目標、実施—」,日本医療・病院管理学会,東海病院管理学会研究会共催、日本福祉大学健康社会研究センター/厚労科研費「健康の社会的決定要因」研究(尾島)班共同企画国際シンポジウム「介護予防・健康政策マネジメントの潮流—社会環境や格差への着目」,名古屋市・ウインクあいち,2012 年 8 月 4 日
59. 松田亮三,「格差社会における健康の公平性の追求：国際的経験から日本への示唆を考える」,第 71 回日本公衆衛生学会総会・フォーラム「健康課題に対する社会医学からみた今後の新しい健康支援方法」,山口県・山口市民会館,2012 年 10 月 24 日~26 日
60. 中鹿直樹・川村徹也・尾西洋平・望月昭,「知的障がい者の就労場面における役割設定の効果」,対人援助学会第 4 回大会,横須賀市・神奈川県立保健福祉大学,2012 年 12 月 8 日
61. 宮田正子・吉村昌子・孫琴・高橋伸子・石川真理子・坂口佳江・小田博子・吉田甫・土田宣明・大川一郎,「学習活動を支える継続サポートに関する研究」,日本老年行動科学学会第 15 回大会,東京都・筑波大学文京校舎,2012 年 10 月 14 日
62. 村川治彦・小田博志・村本邦子,「体験的心理学を基盤とした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発の試み」,日本平和学会 2012 年度春季大会,沖縄県・沖縄大学,2012 年 6 月 23 日~24 日
63. 村本邦子,「大学(院)教育におけるジェンダー・フェミニズム~臨床心理学の課題」,日本心理学会第 76 回大会,神奈川県・専修大学,2012 年 9 月 11 日~13 日
64. 村本邦子,「日本の児童・女性政策と心理学 ~バックラッシュ、ナショナリズムと心理学 (Special Workshop 社会問題・社会政策と心理学の親しき関係を問い直す~日本と英国の比較を通して)」,日本社会心理学会第 53 回大会,茨城県・つくば国際会議場,2012 年 11 月 17 日~18 日
65. 村本邦子,「DV 被害母子への支援の実態と可能性~福祉・心理、業績、司法はいかに連携しうるのか」対人援助学会第 4 回大会,横須賀市・神奈川県立保健福祉大学,2012 年 12 月 8 日
66. 村本邦子,「性暴力防止のための紙芝居「まった丸」の作成」,日本心理臨床心理学会第 31 回秋季プログラム,愛知県・愛知学院大学,2012 年 9 月 15 日
67. 望月昭・中鹿直樹・尾西洋平・林炫廷・乾明紀,「学生ジョブコーチ」による障がい者就労支援の役割」,対人援助学会第 4 回大会,横須賀市・神奈川県立保健福祉大学,2012 年 12 月 8 日
68. 矢藤優子・廣瀬翔平,「幼児におけるベンダーゲシュタルトテスト得点とその筆運プロセスの関連：筆速と筆順に注目して」,日本心理学会第 76 回大会,神奈川県・専修大学,2012 年 9 月 11 日~13 日
69. 山本博樹,「少子高齢化社会に貢献する教育実践心理学—research question はどこにあるのか?—」,日本心理学会第 76 回大会,神奈川県・専修大学,2012 年 9 月 11 日~13 日
70. 山本博樹,「高校「倫理」教科書の読解学習と学習支援 (1)—高校生における体制化過程のつまずき—」,日本心理学会第 76 回大会,神奈川県・専修大学,2012 年 9 月 11 日~13 日
71. 山本博樹,「高校「倫理」教科書の読解学習と学習支援 (2)—思想形成過程の分かりやすさに介在する構造方略—」,日本教育心理学会第 54 回大会,沖縄県・琉球大学,2012 年 11 月 23 日~25 日
72. 山本博樹,「高校「倫理」教科書の読解学習と学習支援 (3)—思想形成過程の分かりやすさを規定するメカニズム—」,沖縄県・琉球大学,2012 年 11 月 23 日~25 日

73. 山本博樹,「高齢者への学習支援から推し量る児童生徒の支援ニーズ—テキスト学習を捉え直す—」,日本教育心理学会第54回大会,沖縄県・琉球大学,2012年11月23日~25日
74. 山本博樹,「少子高齢化社会で生き抜く児童生徒のための学習支援—将来(生涯)を見据えた支援ニーズとは何か?—」,日本教育心理学会54回大会,沖縄県・琉球大学,2012年11月23日~25日

3) 省庁、学会、財団などの表彰

4) 外部資金獲得(競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等)

1. 受託研究 滋賀県 2012.11~2013.3
「いじめ問題調査研究業務」 野田正人 ¥1,430,000
2. 共同研究 公益財団法人京都市ユースサービス協会
「ユースワーカー養成のための専門プログラム開発の研究」 野田正人 ¥100,000
3. 共同研究 独立行政法人理化学研究所
「Visiome プラットフォーム(PF)の継続開発・公開運用とコンテンツ収集・登録」 北岡明佳 ¥396,000
4. 奨学寄附金 株式会社公文教育研究会 吉田甫 ¥500,000
5. 奨学寄附金 公益財団法人日本生命財団 2010.4~2012.9 津止正敏 ¥2,400,000
6. 奨学寄附金 株式会社アワハウス 望月昭 ¥500,000
7. 奨学寄附金 内田昭弘 佐藤達哉 ¥200,000
8. 補助金 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2010~2012
「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」 土田宣明 計¥69,000,000
9. 競争的資金 独立行政法人科学技術振興機構 2009.10~2012.9
「家庭内児童虐待防止に向けたヒューマンサービスの社会実装」 中村正 計¥16,250,000
10. 競争的資金 科学研究費補助金 新学術領域研究(領域提案) 2011.4.1~2016.3.31
「三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築」 佐藤達哉(代表) 計¥13,400,000
11. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究A 2010.4.1~2014.3.31
「新しい錯視群の多面的研究—実験心理学・脳機能画像・数理解析の手法を用いて」
北岡明佳(代表) 計¥37,000,000
12. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究A 2012.4.1~2016.3.31
「特別なニーズをもつ子どもへの教育・社会開発に関する比較研究」 黒田学(代表) 計¥39,100,000
13. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究B 2012.4.1~2014.3.31
「障害者施設職員のメンタルヘルス予防対策の検討—福祉現場の職階に視点をあてて」
峰島厚(代表) 計¥9,500,000
14. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2009.4.1~2013.3.31
「生命倫理学における安楽死・尊厳死論のキリスト教的基盤に関する歴史的社会的研究」
大谷いづみ(代表) 計¥3,400,000
15. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2007.4.1~2014.3.31
「推論と判断における等確率ヒューリスティックと因果性」 服部雅史(代表) 計¥6,800,000
16. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2010.4.1~2013.3.31
「サイボーグ医療倫理の科学技術史的基盤に関する研究」 松原洋子(代表) ¥2,800,000
17. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2010.4.1~2013.3.31
「マルセル・モース人類学の現代的再評価」 渡辺公三(代表) ¥2,300,000
18. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2010.4.1~2013.3.31
「障害者の継続的就労を実現する継続支援ロジックと方法の開発」 望月昭(代表) ¥3,400,000
19. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2010.4.1~2013.3.31
「抑制機能の加齢変化とその可塑性—地域在住高齢者の縦断的調査を通して—」
土田宣明(代表) ¥2,700,000

20. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2010. 4. 1~2013. 3. 31
「発達障害当事者とその家族における発達支援ニーズに関する語りの発達心理学的研究」
竹内謙彰（代表） ￥2, 300, 000
21. 競争的資金 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究 2011. 4. 1~2014. 3. 31
「多言語 DAISY テキストに基づく「外国人児童学習支援」に向けたアクションリサーチ」
小澤亘（代表） 計￥3, 380, 000
22. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究A 2010. 4. 1~2013. 3. 31
「不妊夫婦の喪失と葛藤、その支援—見えない選択径路を可視化する質的研究法の応用的展開」
安田裕子（代表） ￥3, 380, 000
23. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究B 2010. 4. 1~2014. 3. 31
「「投影ドラマ法」の可能性—既存の表現療法技法との比較、グループでの実施も踏まえて」
岡本直子（代表） ￥1, 800, 000
24. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究B 2010. 4. 1~2013. 3. 31
「ジェンダーセンシティブな家族介護者支援の可能性—男性介護者調査から—」 斎藤真緒（代表） ￥2, 700, 000
25. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2011. 4. 1~2014. 3. 31
「ケア包摂型コミュニティとボランタリーアソシエーションの構造相関性に関する臨床研究」
津止正敏（代表） 計￥4, 940, 000
26. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2011. 4. 1~2014. 3. 31
「死刑に対する態度を規定する要因の心理学的検討」 山崎優子（代表） 計￥4, 680, 000
27. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2011. 4. 1~2014. 3. 31
「前頭葉賦活課題による自閉症児の認知機能および行動改善に関する研究」 吉田甫（代表） 計￥5, 070, 000
28. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2011. 4. 1~2014. 3. 31
「高校「倫理」教科書の読解学習を支援する標識化の有効性に関する実証研究」 山本博樹（代表） 計￥5, 070, 000
29. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2011. 4. 1~2014. 3. 31
「障がいのある子どもを持つ家族へのメンタルサポートプログラムの開発」 谷晋二（代表） 計￥3, 640, 000
30. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究B 2011. 4. 1~2014. 3. 31
「日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発」
村本邦子（代表） 計￥5, 070, 000
31. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2011. 4. 1~2015. 3. 31
「身体的姿勢によって変容する視空間の特性：斟酌理論に照らして」 東山篤規（代表） 計￥4, 810, 000
32. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2012. 4. 1~2015. 3. 31
「政治的流動化過程における日韓NPO」 秋葉武（代表） 計￥3, 380, 000
33. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究B 2012. 4. 1~2016. 3. 31
「心理主義化と参加型社会の形成」 崎山治男（代表） 計￥4, 420, 000
34. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2012. 4. 1~2015. 3. 31
「公的雇用と女性労働の関連性についての国際比較研究」 筒井淳也（代表） 計￥3, 250, 000
35. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2012. 4. 1~2015. 3. 31
「虐待が生産する家族の相互作用と関係性の特性についての臨床社会学的研究」 中村正（代表） 計￥4, 810, 000
36. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究C 2012. 4. 1~2015. 3. 31
「「司法臨床」の展開に関する実証的研究—弁護士と臨床心理士の協働をもとに—」
廣井亮一（代表） 計￥4, 680, 000
37. 競争的資金 科学研究費補助金 新学術領域研究 2012. 4. 1~2014. 3. 31
「DV被害母子支援の地域連携—福祉・心理と司法の融合に向けたアクションリサーチ」
安田裕子（代表） ￥2, 470, 000
38. 日本学術振興会助成金 ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI 2012

「模擬法廷に来て裁判を体験してみよう」 山崎優子（代表） ￥450,000

39. 助成金 公益財団法人三菱財団 2011～2013

「ひきこもる若者を対象とするピアアウトリーチ支援者養成に関する研究」 山本耕平（代表） 計￥3,700,000

40. 内閣府 「子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」 2012

研修会全5回 山本耕平（代表）※経費執行は内閣府が行っていた為、資金の直接的な受入れはない。

5) 特許

①出願

②取得

6) その他（報道発表、講演会等）

①報道発表

1. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第1回 錯視とは」, 京都新聞, 2012年6月13日
2. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第2回 蛇の回転」, 京都新聞, 2012年6月20日
3. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第3回 だまし絵」, 京都新聞, 2012年6月27日
4. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第4回 アイシャドーの錯視錯視とは」, 京都新聞, 2012年7月4日
5. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第5回 プラッドとランダムドット」, 京都新聞, 2012年7月18日
6. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第6回 動く錯視と傾き錯視」, 京都新聞, 2012年7月25日
7. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第7回 ピカピカする錯視」, 京都新聞, 2012年8月1日
8. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第8回 シルエットが招く複数の立体視」, 京都新聞, 2012年8月15日
9. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第9回 色の恒常性」, 京都新聞, 2012年8月22日
10. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第10回 鳥居の錯視」, 京都新聞, 2012年8月29日
11. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第11回 縞模様の錯視」, 京都新聞, 2012年9月5日
12. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第12回 さかさ絵」, 京都新聞, 2012年9月12日
13. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第13回 錯視と美」, 京都新聞, 2012年9月19日
14. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第14回 オオウチハジメさん」, 京都新聞, 2012年9月26日
15. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第15回 奥行き」, 京都新聞, 2012年10月3日
16. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第16回 渦巻き」, 京都新聞, 2012年10月17日
17. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第17回 クラシックな錯視」, 京都新聞, 2012年10月24日
18. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第18回 ステレオグラム」, 京都新聞, 2012年10月31日
19. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第19回 色の錯視の作り方」, 京都新聞, 2012年11月7日
20. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第20回 これは錯視ではない?」, 京都新聞, 2012年11月14日
21. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第21回 トリックアート」, 京都新聞, 2012年11月21日
22. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第22回 エイムズの部屋」, 京都新聞, 2012年11月28日

日

23. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第23回 坂道の錯視」, 京都新聞, 2012年12月5日
24. 北岡明佳, 「錯視の連載コラム「おもしろ錯覚図鑑」第24回 蛇の錯視デザイン」, 京都新聞, 2012年12月20日
25. 村本邦子(制作協力), 「子どもを守れキャンペーン:虐待」, NHK, 2012年3月12日～

②講演会

1. 秋葉武, 「日韓の社会的企業から考える」, 越谷市男女共同参画センター主催「大人の学校2012 学ばなかった科目」, 埼玉県・越谷市男女共同参画支援センター, 2012年12月2日
2. 大谷いづみ, 「生命倫理(学)と生存学のやっかいな関係について」, 2012年度生存学セミナー, 京都市・京都キャンパスプラザ, 2012年8月22日
3. 大谷いづみ, 「問いをはぐくむ」, 日本教育新聞社教育セミナー2012 in 大阪、今、求められるいのちの教育」, 大阪府・たかつガーデン, 2012年12月1日
4. 大谷いづみ, 「「自分らしく、人間らしく」死にたい?—尊厳死・安楽死を考える」, 2012年度修学院フォーラム, 京都市・関西セミナーハウス, 2013年1月19日
5. 日下菜穂子, 「豊かな高齢期を築くうつ予防の心理的介入—認知行動療法に基づく生きがいプログラム—」, 人間科学研究所「高齢者支援チーム」講演会, 京都市・立命館大学, 2012年5月12日
6. 中村正, 「高齢者虐待防止についての専門家セミナー第1回」, 高齢者虐待防止についての専門家セミナー, 大阪市・大阪府介護支援課, 2013年1月30日
7. 中村正, 「高齢者虐待防止についての専門家セミナー第2回」, 高齢者虐待防止についての専門家セミナー, 大阪市・大阪府介護支援課, 2013年2月6日
8. 中村正, 「高齢者虐待防止についての専門家セミナー第3回」, 高齢者虐待防止についての専門家セミナー, 大阪市・大阪府介護支援課, 2013年3月13日
9. 中村正, 「高齢者虐待防止についての専門家セミナー第4回」, 高齢者虐待防止についての専門家セミナー, 大阪市・大阪府介護支援課, 2013年3月18日
10. 中村正, 「夫婦関係における病理とその克服—なぜ、愛する人を殴るのか」, 新潟県・新潟県中央福祉相談センター, 2013年3月14日
11. 中村正, 「学校現場におけるハラスメント対応の基本」, 滋賀県・近江兄弟社学園, 2013年1月4日
12. 中村正, 「長期化したひきこもりの特徴とその支援について」, ファーストジョブステップグループ10周年企画基調講演, 京都市・コープイン京都, 2013年1月20日
13. 中村正, 「虐待する親へのアプローチ—家族のやり直しを支援するための家族システム論基礎」, 京都市子育て支援課主催専門研修講演, 京都市, 2013年2月27日
14. 中村正, 「父親の子育てと生き方」, 大阪府熊取町子ども支援課, 大阪府・熊取町, 2013年3月3日
15. 松田亮三, 「大学の個人情報保護と情報金庫について」, 対人援助における情報金庫・アーカイブの活用に向けて, 京都市・立命館大学, 2012年8月2日
16. 山本博樹, 「学習支援研究に基づく高齢者へのテキストデザイン」, テクニカルライターの会第6回定例会, 大阪府・財団法人関西情報・産業活性化センター, 2013年1月30日

③その他

1. 秋葉武, 「NGOとステークホルダーの連携」, 外務省NGO研究会公開シンポジウム「大学とNGOの連携」, 大阪市・大学コンソーシアム大阪, 2013年2月20日
2. 秋葉武, 「生協と産地の地域再生—事業連帯の可能性—」, 暮らしと協同の研究所第20回総会シンポジウム, 京都市・コープイン京都, 2012年6月30日～7月1日
3. 秋葉武, 「日本の共済—その特徴と課題—」, 第5回労働者共済運動研究会, 東京都・全労済協会会議室, 2012年6月6日
4. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年4月29日
5. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年5月26日

6. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年6月24日
7. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年7月22日
8. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年9月26日
9. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年10月21日
10. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年11月18日
11. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2012年12月16日
12. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2013年1月20日
13. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2013年2月17日
14. 荒木穂積・竹内謙彰, あひるくらぶ「観察研究」, 京都市・立命館大学, 2013年3月23日
15. Armand Volkas, 「こころとからだで考える歴史と平和」, 人間科学と平和教育, 京都市・立命館大学, 2012年5月4日~5日
16. 石幡愛・田中保帆・朝野浩, 「「ヒトマト」などの実践事例から考える」, 京都市・立命館大学, 2013年3月23日
17. 大家友和×漆原良・河口正史×山下高行・小倉大岳×市井吉興, 「シリーズ12『窓としてのスポーツ 鏡としてのスポーツ』」, 公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」(全3回), 京都市・立命館大学, 2012年5月19日, 6月30日, 7月21日
18. 岡野雄一, 「介護退職ゼロ作戦! 介護しながら働き続けられる社会へ」, 男性介護研究会, 京都市・立命館大学, 2013年3月10日
19. 坂本真紀, 「ワークショップ「見本合わせ課題」から応用行動分析を学ぶ」, 京都市・立命館大学, 2013年2月16日
20. 孫琴, 「音読・計算活動の遂行による実践報告」, 人間科学研究所「高齢者支援チーム」研究報告会, 京都市・立命館大学, 2012年5月12日
21. 孫琴・戸名久美子, 「みんなの頭をリフレッシュ」, 2013年2月23日
22. 張連紅・Armand Volkas・加國尚志・中村正・村川治彦・大門高子, 「体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から」, 京都市・立命館大学, 2012年4月28日
23. 津止正敏・池田心豪, 「介護退職ゼロ作戦! フォーラム 2012」, 男性介護研究会, 京都市・立命館大学, 2012年11月11日
24. David Over・Jean Bratgin, 「思考研究の新パラダイム」, David Over & Jean Bratgin 講演会, 2012年9月6日
25. 中村正・吉沅洪×荒木穂積・井上春生×谷晋二, 「シリーズ13『父親と発達障がい』」(全3回), 京都市・立命館大学, 2012年9月15日, 10月20日, 12月1日
26. 早樫一男, 「ジェノグラムと家族造形法」, 大阪府・城北市民学習センター, 2012年7月22日
27. 樋口恵子, 「介護と仕事の両立一大介護時代を生きるために」, 男性介護研究会シンポジウム, 2013年3月9日
28. 廣井亮一, 「司法臨床と臨床心理士」, 和歌山臨床心理士定期大会, 和歌山県, 2012年7月29日
29. ベン・ファーマン, 「ベン・ファーマン先生のソリューション・フォーカス・アプローチ入門: 子どもを! 現場を! 元気にする」, 大阪府・大阪市子育ていろいろ相談センター, 2012年8月4日
30. ベン・ファーマン, 「ベン・ファーマン先生のソリューション・フォーカス・アプローチ研修 応用編: 解決志向を現場で活用するために」, 大阪府・大阪市子育ていろいろ相談センター, 2012年8月5日
31. 前田ハル子・野池雅人・栗田佳典・陶山幸子, 「ひきこもりを通してみえる「仕事」の意味」, 京都市・コープイン京都, 2012年1月20日
32. 村本邦子(取材協力), 「大震災が残したトラウマに寄り添う対人援助学」, アエラ, 2012年2月20日~
33. 山崎優子・サトウタツヤ・稲葉光行, 「模擬法定に来て裁判を体験してみよう」, ひらめき☆ときめきサイエンス, 京都市・立命館大学, 2012年8月4日
34. 山崎淳一郎, 「自立支援のための持続的対援助 —地域資源としての大学の活用—」,

35. 山本博樹, 「高校生の「倫理」学習のつまずきを規定する構造方略の未熟達－見過ごされてきた支援ニーズ－」, 京都市・立命館大学, 2013年1月27日
36. 洛北高校公民科「倫理」研究発表, 京都市・洛北高校, 2013年2月13日
37. 山本恒雄, 「児童相談現場における「介入」と「支援」を巡って」, 大阪府・大阪市子育ていろいろ相談センター, 2012年9月1日
38. 吉田甫・土田宣明, 「脳をきたえる「音読・計算」サポーター説明会」, 京都市・立命館大学, 2012年4月28日
39. 渡辺あや×中村正, 薛暁路×中村正, 井上里士×団士郎, 「シリーズ14『1.17から3.11へ、そして……。-回復(レジリエンス)する力-』(全3回)」, 京都市・立命館大学, 2013年1月19日, 2013年2月16日, 2013年3月9日

以上